

各位

日本農産工業株式会社

2013年10～12月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2013年10～12月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2013年7～9月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約1,600円値下げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、7月以降、4ドル台後半から5ドル台前半（ブッシェル当たり）にかけての範囲で取引されています。今年の米国産とうもろこしが豊作となる可能性が高まり、昨年から続いていた需給逼迫基調が解消する見通しになったことから、相場は6月までと比較して大きく下落しています。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、8月以降の米国産地の降水量不足により作況が大きく悪化したことを受けて急上昇しました。10～12月期間渡し大豆粕価格は、7～9月期間と比べ値上がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス級本船の運賃は、トン当たり40ドル台後半～50ドル台半ば水準での取引となっています。中国向けを中心とした傭船需要が増加していること、中東情勢等を材料に燃料相場が上昇したことから、直近の運賃相場は上昇傾向になっています。

4. 外国為替

昨年11月から今年5月にかけて起きた急激なドル高円安の動きは収束しつつあり、直近のドル／円相場は、おおむね1ドル＝98円～100円の範囲で取引されています。4～6月の間がおおむね1ドル＝93円～103円の範囲だったのに対し、7月以降はおおむね1ドル＝96円～101円の範囲で取引されており、前四半期との比較において、為替の取引値はほぼ同水準となっています。